



撮影 松村和彦

立命館大学国際平和ミュージアム第129回ミニ企画展示

ふじきまっか

2020年2月17日(月)～3月21日(土)
立命館大学国際平和ミュージアム2階常設展示室内

「こんなはずじゃなかった」

京都・西陣にて地域、医療、老いと向き合った医師、早川一光氏(1924-2018)は、地域医療のパイオニアであり、晩年は自らも病を得て、人間全体を診ることの難しさに向き合いました。本展では、戦後日本社会での早川医師の取り組みと、老いの中で理想の医療と介護を考え続けた姿を紹介した「こんなはずじゃなかった」(松村和彦写真展KG+2019 KYOTOGRAPHIE SATELLITE EVENT)をもとに、松村氏自作の写真集等も加え、安心、安全に暮らす社会を私達はどのように実現することが出来るのか、改めて考える機会として開催します。



撮影 松村和彦

2020年2月17日(月)～3月21日(土)

会場 立命館大学国際平和ミュージアム2階 常設展示室内

開館時間 9:30～16:30(入館は16:00まで)

休館日 日曜日(ただし2/23は開館)、2/24(月)

見学資料費 大人400円(350円)、中高生300円(250円)、小学生200円(150円)

- ・()内は20名以上の団体料金
- ・地階受付で見学資料費をお支払いください
- ・立命館で学ぶ人・働く人は無料です

主催 立命館大学国際平和ミュージアム

協力 京都新聞社

立命館大学地域健康社会学研究センター

早川さくら×松村和彦 講演会

2020年2月29日(土) 14:00～15:30

立命館大学国際平和ミュージアム 2階会議室

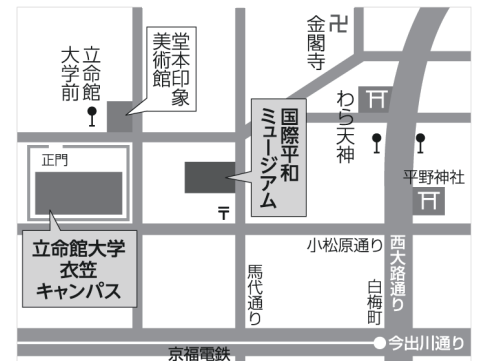
申込不要・参加費無料 ※ミニ企画展示をご覧いただくには見学資料費が必要です

早川 さくら氏 (フリーライター)

2016年1月から2018年5月まで、早川一光聞き書き「こんなはずじゃなかった」を京都新聞に連載。この連載で、松村和彦氏とともに2018年度日本医学ジャーナリスト協会賞大賞、2018年度坂田記念ジャーナリズム賞を受賞。早川一光氏長女。

松村 和彦氏 (京都新聞社編集局写真部記者)

2003年記者として京都新聞社に入社。2005年写真記者となる。写真集に、京都の芸舞妓の人生を描いた「花也」(京都新聞出版センター、2014年)、個人的な取り組みとして家族の生と死を通じて命のつながりを描いた「ぐるぐる」(自主制作、2016年)がある。



交通案内

市バス12・15・50・51・52・55・59、JRバスにて

「立命館大学前」下車、徒歩5分

市バス204・205にて「わら天神前」下車、徒歩10分

※お車でのお来館はご遠慮ください

〒603-8577京都市北区等持院北町56-1

TEL075-465-8151 FAX075-465-7899

<https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/>